

教員個人に関する書類

教育研究業績書

2022年5月1日

氏名 福山 裕宣
修士(経営工学)

著書・学術論文等の名称	単著 共著の 別	発行又は発表の 年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会の名	概 要 (別紙に記入)
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等)				
① 項目反応理論による新入生のコンピュータ・リテラシーの測定	共著	平成22年3月	東京成徳大学研究紀要 —人文学部・応用心理学部一、No17、pp. 033-047、2009	共著者：川合治男、福山裕宣、半田勝久、岩瀬弘和
② 東京成徳大学における新入生のコンピュータ・リテラシーに関する調査	共著	平成21年3月	東京成徳大学研究紀要 —人文学部・応用心理学部一、No16、pp. 059-071、2008	共著者：川合治男、福山裕宣、半田勝久、岩瀬弘和
③ 教員—学生間連絡システムの構築と運用—マルチメディアシラバスを利用して—	共著	平成19年9月	私立大学情報教育協会、平成19年度大学教育・情報戦略大会予稿集、pp. 212-213	共著者：川合治男、福山裕宣、半田勝久、岩瀬弘和
④ マルチメディアシラバスと連動した授業ポータルサイトの構築と運用	共著	平成18年9月	私立大学情報教育協会、平成18年度大学教育・情報戦略大会予稿集、pp. 276-277	共著者：川合治男、福山裕宣、半田勝久、岩瀬弘和
⑤ 講義補完型マルチメディア教育システムの構築とその運用に関する研究	共著	平成17年9月	私立大学情報教育協会、平成17年度大学情報化全国大会予稿集、pp. 262-263	共著者：川合治男、福山裕宣、半田勝久、岩瀬弘和、渡部泰夫、毛利昭、松本壽三
(その他)				
① 社会調査協会連絡責任者として、観光文化学科の学生による社会調査士資格奨励		平成22年4月		
② 社会調査協会連絡責任者として、臨床心理学科の学生による社会調査士資格奨励		平成26年3月		
		平成26年4月 ～現在に至る		

教育研究業績書 別紙 <概要>

No. /

氏名 福山 裕宣
修 士(経営工学)

単著・学術論文・ その他の別	共著	* 「教育研究業績書」 への記入の 順序にしたがってお書きください。
著書・学術論文等の名称	教育研究業績書の「概要」欄	
(学術論文等) ① 項目反応理論による新入生のコンピュータ・リテラシーの測定	これまで、コンピュータ・リテラシーの習得度や教科の学習到達度をみるために、本研究グループで構築したシステムを利用しつつ、調査を行ってきた。本研究では、5年間のアンケートデータに対して項目反応理論による解析を行なった。これまで調査してきた各項目の特性や能力値の推定結果を示し、使用したアンケート項目の妥当性を確認するとともに、アンケート全体の測定精度、能力値とアンケートとの相関などについて考察した。 共同研究につき担当部分抽出不可能。	
② 東京成徳大学における新入生のコンピュータ・リテラシーに関する調査	高等教育機関だけでなく中等教育機関においても、情報機器を用いた調べ学習が定着しつつある。本学においても基本的なコンピュータスキルの習得は前提となりつつあるため、入学時点での学生のコンピュータ・リテラシーを把握し、必要最低水準に達していない学生の能力を引き上げることが必要不可欠となっている。本論文では、平成17年度から4年間にわたり東京成徳大学の新生を対象として実施してきたコンピュータに関するアンケートに基づき、コンピュータ・リテラシーの変化、教科「情報」の履修状況、家庭のPC保有状況、パソコン関連資格の取得状況等を明らかにするとともに、これらを要因とするコンピュータ・リテラシーの相違について分析した。 共同研究につき担当部分抽出不可能。	
③ 教員－学生間連絡システムの構築と運用－マルチメディアシラバスを利用して－	これまでに構築し、独立した状態で運用されてきた、マルチメディア教育システムと、講義補完型システム、さらに教員個々に作成された授業のコンテンツをデータベース化・統合化することにより、利便性が向上した。 共同研究につき担当部分抽出不可能。	
④ マルチメディアシラバスと連動した授業ポータルサイトの構築と運用	予習や復習に有益な情報をデータベース化して公開する基本となる教育システムと、アンケートや小テスト等をWEB上で簡単に作成・実施できるシステムを構築した。これにより冊子シラバスを補完しつつ、さらに学習到達度のチェックなど、きめ細かな授業実践を行うことが可能となった。 共同研究につき担当部分抽出不可能。	
⑤ 講義補完型マルチメディア教育システムの構築とその運用に関する研究	教職員・学生による積極的利用を促し、かつ、教員・学生間に加え、学生同士の連絡や情報共有を促すコミュニケーションツールを開発した。また更新が容易に可能な教育システムを構築し、さらにユビキタスに対応したため、様々な端末からのアクセスが可能となり、利便性の向上を得た。 共同研究につき担当部分抽出不可能。	
(その他) ① 社会調査協会連絡責任者として、観光文化学科の学生による社会調査士資格奨励、 ② 社会調査協会連絡責任者として、臨床心理学科の学生による社会調査士資格奨励、	社会調査士とは、社会調査協会が認定している資格、ならびに社会調査の基礎能力を有する専門家を表します。社会調査の基礎能力は、調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、またその問題点を指摘することができる能力であることから、社会学部・福祉学部・経営学部をはじめ、さまざまな分野の学生が取得しています。 本学においても、観光文化学科の立ち上げ時から、連絡責任者として、授業においては分析手法の講義をしながら、資格取得に向け、取りまとめ等、尽力してきました。その結果、平成24年4名(学部生9名)、平成25年14名(学部生18名)、平成30年13名(学部生74名)がキャンディデイト資格を取得、うち5名が社会調査士資格申請中、令和元年26名(学部生80名)がキャンディデイト資格を取得しています。 社会調査協会 http://jasr.or.jp/index.html	